

# 熊本市民病院再建の基本方針(案)

- I 基本理念・基本方針
- II 熊本市民病院が担うべき役割

平成28年6月6日

## 新熊本市民病院の基本理念

仁愛と奉仕の心をこめて最善の医療を提供する広域拠点病院  
～将来を担う子ども達、そして全ての市民の生命・健康を守るために～

新熊本市民病院は、これまで市民病院が担ってきた責任の大きさ、特に総合周産期母子医療の分野における役割の重大さを再認識し、将来を担う子ども達はもとより全ての市民の生命・健康を守る病院を目指す。

更に、今後の人口減少、超高齢社会を見据え、自治体病院として、また、政策医療のリーダー役として、市民の健康と福祉の向上に貢献するとともに、専門性が高い安全安心な医療を提供することにより地域医療を支える広域拠点病院を目指す。

加えて、今般の熊本地震を教訓とし、大規模災害などの非常時においても、必要な医療を提供できる体制を構築する。

## 市民病院再建の基本方針

市民病院の再建にあたっては、復興のシンボルの一つとして、基本理念をもとに、早期実現を目指す。

### 1 地震等の災害に強い病院

市民の命を守ることができる地震等の災害に強い安全な拠点病院として再建するため移転新築する。

### 2 周産期母子医療を中心とした安心安全な病院

高度な専門性を有する周産期母子医療(NICU)を中心とした、市民に安全安心な医療を提供できる自治体病院として再建する。

### 3 安定的で持続可能な経営ができる病院

診療体制の充実や採算性向上等を図り、コンパクトで効率性が高い病院として再建する。

## II 熊本市民病院が担うべき役割

新たな市民病院の目指す姿

地震等の災害に強い病院

周産期母子医療を中心とした安心安全な病院

安定的で持続可能な経営ができる病院



特に検討すべき事項

- 災害時に高い拠点性を発揮できる病院
- 災害時の救急受入体制の充実
- 救急医療の体制の強化
- 周産期医療の継続・充実
- がん医療の特化
- 採算性を踏まえた診療体制の構築
- 診療科のユニット化

※ユニット化とは、目的に沿った集学的治療を実施するため、診療科の垣根を越えたよりきめ細かい集学的診療体系を指す。

### 災害拠点としての役割

- 病院機能の喪失を招くことなく、発災後も診療継続できるよう免震構造を基本とし、形状も考慮した災害耐性の高い病院を目指す。
- 水害等その他の災害にも高い耐性を発揮できるよう、主要管理設備機器を施設上階層へ設置し、非常用発電設備・備蓄倉庫の設置場所についても災害耐性に配慮する。
- 水、電気等のライフラインについて二重化を進め、食料、医薬品等の備蓄を行うことで、一定期間自立的運営が可能な施設を目指す。
- 災害時に、多くの傷病者を症状や救急度に応じて受け入れることができるよう、屋外や屋内エントランスに十分なトリアージスペースを確保する。
- 病院敷地内または近接地にヘリポートを整備し、機動的な患者搬送が可能な施設とする。

### 重点的に担う医療3項目

#### 1 周産期医療

(指定状況)

- 総合周産期母子医療センター（県内2施設） ※施設数はH28.4.1時点

(役割)

- 救命救急管理を要する異常妊娠・分娩・合併症妊娠（母体）
- 超低出生体重児（新生児）
- 心疾患等の他科合併症を有する児（新生児）

(特に検討すべき事項)

- 新病院の再建の目的として継続
- 本院の総合診療体制にて対応
- 小児医療の実績を踏まえ、成人期に至るまでの移行期医療の充実を目指す

## II 熊本市市民病院が担うべき役割

### 周産期医療を取り巻く診療科群

#### 現在の診療科

周産期診療科	関連診療科		
	主に周産期	主に小児期・移行期	その他
産科 婦人科 新生児内科 小児循環器内科 小児心臓外科 小児外科	神経内科 代謝内科 腎臓内科 脳神経外科 眼科	小児科 整形外科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 循環器内科 歯科口腔外科	麻酔科 放射線科 病理診断科 集中治療部

- 本院の周産期医療には、主となる診療科以外にも多くの診療科が診療・支援を行っている。
- 安心安全な医療提供には、各診療科専門医のサポートが不可欠であることから、関連診療科の必要性は高い。

### 2 救急医療

(指定状況)

- 病院群輪番制病院（県内42か所）
- 救急告示病院（県内67か所）※施設数はH25.4.1時点

(役割)

- 重症者、中等症者の救急患者受入

(特に検討すべき事項)

- 災害時に高い拠点性を発揮するための受入体制の充実
- 地域の基幹病院として継続
- 上益城・阿蘇医療圏等を含めた広域的な医療提供体制を構築する



### 3 がん医療

(指定状況)

- 地域がん診療連携拠点病院（県内7か所）※施設数はH28.4.1時点

(役割)

- 熊本・上益城医療圏を主としてカバー

※ 上益城医療圏は、国及び県指定がん診療連携拠点病院なし

(特に検討すべき事項)

- 高度医療、急性期医療として継続
- 注力すべき分野（部位）を検討、決定
- 検討、決定にあたっては、本院の実績、他の重点医療との関連性、採算性、周辺医療機関の特長を考慮